

# 【ねがいましては】

平成16年10月25日

第170号

KYOWA SCHOOL

「どうしよう」

長期にわたって子どもたちと触れ合っているうちに、「ふーん、なるほど。」「そうかー。」などと、独り言のような感じで納得してしまうことがあります。

とりわけ学校での勉強が大の苦手という子たちにかなりの割合で共通するのが、この「どうしよう」現象。

子どもたちの勉強に対する気持の持ち方はさまざま、大きく分けてみると、

『大好き派』『あまり気にしない派』『どうしよう派』『開き直り派』ぐらいになるのでしょうか。

『大好き派』・・・ほとんどいないといつてもいい。

『あまり気にしない派』・・・家庭ではあまり親から成績のことなどに対する「ことば」がない。しかし自分にはめっぽうきびしい。

『どうしよう派』・・・成績に関してはかなり「親がうるさい」、特にテストの点数にはうるさい。

この子たちのほとんどが成績は振るいません。

『開き直り派』・・・親もあまり口出ししないと同時に、本人も「どうせ親も悪かったんだから」などと開き直っている。

この中で最も私の理想とするのが『あまり気にしない派』だと思っています。

かなり前のことなのですが、ここに通う子が友達を連れてきました。高校1年生の女の子だったか・・・。

その子は塾にも通わず独学で船橋高校に合格しており、もちろん中学校は地元の福栄中学校です。ちょうど授業中だったので教えてもらうことにしました。

教え方が非常に『自然体』なのです。普通は「教えられなかつたらどうしよう」などと不安が先に走るのがあたりまえと感じていた私は、この表情に思わず「えっ」という声が心に走るのを感じました。「なるほど、これか。」という納得に近い感情が表れるのを、今でもしっかりと覚えているのです。その子は学校でも常に学年1位2位を争う存在であったらしく、周りからは「天才少女」のレッテルが貼られていたことでしょう。しかしそのようなことには全くこだわらず、非常に謙虚な子であったように覚えています。

『どうしよう派』のほとんどは、普段の学校での勉強でも、テストの時間でも、常に「どうしよう」と心で呟いています。「どうしよう、どうしよう、わからなかつたらどうしよう。」「どうしよう、どうしよう、できなかつたらどうしよう。」と不安が100%こころを奪ってしまいます。そんな心理状態ですから、先生の話など上の空になってしまいます。結果やはりわからなかった。と、気持はそこへ落ち着きます。

この子たちのほとんどが『まじめさん』です。そして気が小さいところがあります。この子たちは毎日のように勉強に対して『ストレス』を感じながら生活しています。こころは不健康な状態にあります。

片や『あまり気にしない派』は、目立ったストレスもなくマイペースで机に向かうことが出来ます。私は先ほどの高校生は『あまり気にしない派』だと確信しています。というのも、その後彼女は船橋高校からストレートで国立千葉大に合格、在学中レポート作成や論文作成に苦労します。徹夜などあたりまえ的な生活を送り、体調を崩してしまったこともあるそうです。卒業後、日本IBMに入社、その後はどうされたか・・・。音信は不通になっています。おそらく彼女は自分にきびしい性格であったと思います。自分が納得いかなければ続ける。自分に負けず嫌いだったんですね。他人に負けず嫌いは途中棄権が多いようです。

私は、この『自分が納得いかなければ続ける。』という感覚は、勉強の世界では当たり前、自然な感覚だと思います。わからないからわかるとする、解けないから解こうとする。この誰もが当然と思える『気持』が失われている子達が現段階では大勢を占めているのではないかと思うのです。受動的勉強からの必然的現象でしょう。

ここに通う子達の中でも、『自然体』で机に向かっている子もいます。しかし大方は『勉強大嫌い』を表情で宣言している子たちがほとんどと言わざるを得ません。

私の毎日の戦いは、この『勉強大嫌い宣言』をしている子達の心の中を、『自然体』・・・つまり『あまり気にしない派』に変化させてゆくことだと思っております。成績はその後自然とついてきます、必ずです。

で、私からのお願い・・・お母様方にどうか子どもたちが『自然体』に移行できるようご協力いただきたいのです。私がいくら根気根気で言い続けても、ご家庭でことごとく子どもたちのこころは崩壊してしまっては、何の意味もなさないからです。どうかよろしくお願ひいたします。

ああ、また今日も「どうしよう」って思いながらテストをうけているのかな・・・。

11月の予定 11月12日(金) 珠算・暗算検定試験締め切り

初旬・・・全国統一模擬テスト 実施

クリラン・DVDシアター → 別紙にてお知らせいたします。